

タイトルが2行の時にはこうなる スタイルファイルのサンプル

〇〇株式会社

□□部△△課

× ×

2022年4月1日

目 次

| | | |
|----------|------------------|----------|
| 1 | 数式 | 1 |
| 1.1 | 行内数式 | 1 |
| 1.2 | 別行立て数式 | 1 |

1 数式

L^AT_EX で数式を書く時には、文中に含まれる行内数式と、独立した行に置かれる別行立て数式がある。

1.1 行内数式

Albert Einstein は 1907 年に、「質量とエネルギーの等価性」とその定量関係を表す、 $E = mc^2$ という等式を発表した。

上の例のように行内数式を記述するには、数式を\$ で囲う。

1.2 別行立て数式

流体の運動を記述する 2 階非線形偏微分方程式であるナビエ-ストークス方程式は、以下のように記述される。

$$\begin{aligned} \frac{D\boldsymbol{v}}{Dt} = & -\frac{1}{\rho}\text{grad}p + \frac{\mu}{\rho}\Delta\boldsymbol{v} + \frac{\lambda + \mu}{\rho}\text{grad}\Theta + \frac{\Theta}{\rho}\text{grad}(\lambda + \mu) \\ & + \frac{1}{\rho}\text{grad}(\boldsymbol{v} \cdot \text{grad}\mu) + \frac{1}{\mu}\text{rot}(\boldsymbol{v} \times \text{grad}\mu) - \frac{1}{\rho}\boldsymbol{v}\Delta\mu + \boldsymbol{g} \end{aligned}$$

上の例のように別行立て数式を記述するには、数式を $\begin{equation}$ と $\end{equation}$ で囲う。

参考文献